

血液内科のこの一年

滋賀医科大学消化器・血液内科（第二内科）同門会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて本年 3 月、ようやく血液内科医局員を一つの部屋に迎え入れることができました。大学との長い交渉を経て実験実習支援センターの 2 階と 3 階にスペースを確保し、実験室だった部屋を居室へ改造、そこへ机、書棚、ロッカー等を揃えて・・・まさか講座開設から 1 年半も要するとは予想もしませんでした。

次は、4C 病棟の無菌治療室の工事を行います。こちらも病院長との長い交渉を終えた後、さらに厚生労働省や学会を巻き込んだ議論に拡大した際にはどうなることかと思いましたが、何とか着工にこぎ着けることができました。まずは第 1 期工事として本年 11 月末から有料個室 3 床を無菌治療室に改造します。そのため来年 2 月末までの数か月間、入院患者数が制限されます。関連病院の先生方、ならびに同じ病棟を使用される当院消化器内科の先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご容赦の程を賜りたく何卒よろしく願い申し上げます。第 2 期工事は令和 7 年度中を予定しています（具体的な工期は未定）。

大学では現在 10 名の医師が血液内科診療に従事しています。うち 8 名は血液内科専門医、2 名は医員（専攻医）です。着任当時は私以外に診療担当医師が 5 名しかおらず、入院患者は週末も含め各主治医が個別に対応していました。しかし、医局員が増えたことから週末を当番制に変更しました。重症患者への対応など主治医が出勤することもあります。on/off の勤務体制が少しずつ軌道に乗ってきたように思います。また、これまで血液内科は消化器内科のご厚意により当直を免除して貰っていました。しかし、今年度からは血液内科医も全員当直メンバーに加わるようになりました（年齢上限あり、小学生以下の子供がいる場合は免除）。

本年 4 月、学会認定造血細胞移植コーディネーターの資格を取得した看護師 1 名を輸血・細胞治療部へ配置転換していただきました。昨今看護師不足が叫ばれる中で、1 名とはいえ経験豊かな看護師を他部署へ異動させることが容易でないのは、皆様想像に難くないと思います。これまで当院の移植コーディネートは、カルテも作らず、診療費も請求せず、謂わばボランティアで行われていました。移植は保険診療ですのでこれらの見直しを進めています。因みに、令和 5 年の同種移植は 21 件（血縁 4、骨髄バンク 14、臍帯血 3）でした。年間 20 件以上となったのは平成 24 年以来、10 年振りのようです。しかしこれは決して患者さんを無理に集めた数字ではなく、滋賀県の人口（約 140 万人）から試算すると、本来の需要はこれくらいあるのだらうと思います。

血液内科領域におきまして、この 1 年でまた沢山の新薬が上市されました。その中で大学ならではの治療法・治療薬として、慢性 GVHD に対する体外フォトフェレーシス (ECP)

があります。本年1月、血液浄化部の協力を得て全国で5番目に導入しました。関節の慢性GVHDに対して著効を示しましたので、その経過を報告すべく現在若い医局員が論文投稿中です。また、9月にはCAR-T(イエスカルタ®)実施可能施設として認定を受けました。勿論、滋賀県内では唯一の認定施設です。一次治療後の再発(一次治療終了から12か月以内の再発に限る)または一次治療が奏効しない難治性のB細胞性リンパ腫に対して投与が可能です。適応になりそうな症例がありましたら、迷っている段階で結構ですので、是非大学までご連絡下さい。

教育についても触れておきます。現在、血液内科の系統講義の整理、統合を進めています。講義数を23から20へ減らし、一方で新しく「Case Study」を取り入れました。これは実症例を提示しながら一人の血液内科患者さんの診断から治療までの流れを学ぶという授業です。まずは貧血、急性白血病、悪性リンパ腫の3疾患についてCase Studyを始めました。アンケート結果によればこの講義は学生に好評なようです。系統講義の最後に行う試験もこれまでは記述式のみでしたが、多肢選択問題の割合を徐々に増やしています。また、この1年間で計4名の研修医と医学部学生に学会発表をしてもらいました。血液内科に興味を持つ若者が一人でも増えてくれることを期待しています。

医局員からはこの1年間で5演題、学会発表を行いました(口演、英語ポスターを含む)。また、本年3月に消化器内科教授を退任された安藤朗先生のご指導のもと、浅井愛医師、永井詩穂医師が学位を取得しました。9月には日本組織適合性学会を主催する機会を得ました。準備段階では新型コロナウイルス感染症の流行が続いていたため滋賀県内の会場が予約できず、とても残念な思いをいたしました。来年は日本血液疾患免疫療法学会を主催いたします。こちらはピアザ淡海を予約することができましたので、日本各地からこの滋賀に血液内科医をお招きすることができます。日頃より若い医師には目の前の症例を科学的な目で深く考察し、貴重と考える症例はその都度、発表、論文化していくよう指導しています。そこから自分の一生の研究テーマが見つかることもあります。今後は、滋賀医科大学血液内科からoriginal articleを世に出していかななくてはなりません。その為にも実験室を整備する必要があります。本格的な研究の立ち上げには、まだもう一段の努力が必要だと考えています。

最後になりましたが、同門の先生方の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

令和6年11月

滋賀医科大学 内科学講座 血液内科
教授 村田 誠